「授業のねらい」など

年　　組　　氏名

東京で大分見つけた

八重洲▼臼杵漂着のヤン・ヨーステンに由来

日本橋「麒麟の像」▼朝地出身の渡辺長男設計

東京都内を歩いていると、至る所に「大分」と縁のある場所や建物があることに気付く。先人の足跡を大都市で見つけると、何だか誇らしい気持ちになる。県民の愛郷心をくすぐる「東京の中の大分」を探した。

吉武東里が設計した国会議事堂

渡辺長男がデザインした日本橋の麒麟像

丸ビルのそばにあるリーフデ号のモニュメント

万世橋駅のジオラマ。駅前には広瀬武夫像も

新型コロナウイルスの感染拡大が続く昨年春、3密を避けて散策を始めたところ、JR東京駅近くで偶然、銅板の中の「豊後」の文字に目がとまった。説明書きによると、駅がある「八重洲」（中央区）の地名は江戸時代、臼杵に漂着したオランダ船リーフデ号の乗組員ヤン・ヨーステンに由来するという。

東京駅を挟んで皇居側の「丸の内ビルディング（通称・丸ビル）」（千代田区）のそばには、オランダ政府が贈ったリーフデ号のモニュメントが飾られていた。

面白くなって都内に現存する「大分」を調べると、次々出てくる。一つ一つ巡って写真に収めていった。江戸時代から金融・商業の中心地として栄えた日本橋（中央区）。橋の欄干にある「麒麟の像」はその象徴だ。豊後大野市朝地町出身の渡辺長男（1874～1952年）が設計したもので、テレビや映画に登場することも多い。

かつて交通の要衝だった万世橋駅（千代田区）には、渡辺が手がけた広瀬武夫（軍人、竹田市出身）像が立っていたことも知った。駅舎も像も現存しないが、跡地の商業施設に当時を再現したジオラマがあり、小さな広瀬像を見つけた。

渡辺は、朝倉文夫（1883～1964年）の実兄。朝倉の作品は都内各地にあり、早稲田大（新宿区）の大隈重信像がその一つ。朝倉のアトリエ兼自宅は「朝倉彫塑館」（台東区）として保存され、公開されている。

日頃の取材拠点がある永田町。議員会館の売店で国会ガイドブックをめくると、国会議事堂（千代田区）の設計者として吉武東里（1886～1945年）が紹介されていた。出身地の国東市国東町には生家が残る。

下町情緒あふれる日暮里（荒川区）には、別府観光の父、油屋熊八（1863～1935年）の東京の自宅があったらしい。有名な和菓子の老舗「羽二重団子」を訪ねると、熊八の自宅を示す手書きの回顧図を見せてくれた。「お得意さまだった」との話も受け継がれているのだから驚きだ。

大分と関連するものを見つけると思わず「あ、大分見つけた！」とつぶやく癖がついてしまった。新型コロナの収束が見通せない中、探索は続きそうだ。

（東京支社・江藤嘉寿）

国会議事堂設計▶国東出身の吉武東里

大分にゆかりのある東京都内の施設など

横築した咸宜園（町田市）	広瀬淡窓の私塾。玉川大のキャンパス内にある
江戸城外堀跡石垣（港区）	虎ノ門駅には佐伯藩毛利家の家紋を刻印した石垣が残る
滝廉太郎の銅像（台東区）	旧東京音楽学校奏楽堂の敷地に立つ。作者は朝倉文夫
警視庁（千代田区）	杵築藩松平家の上屋敷跡地に建っている
東禅寺（港区）	臼杵藩稲葉家などの菩提寺。墓は非公開
キリンビールの社名（本社・中野区）	臼杵市出身の実業家、荘田平五郎が名付けた
明治神宮外苑の森（新宿区・港区）	大分県から3千人近い若者が上京して植樹に従事
日比谷公園の豊後梅（千代田区）	園内に全国の「県木」が植えられている

探 SAGURU おおいた

大分合同新聞 2022年8月6日（土）朝刊 1面

大分合同新聞
ワークシート

©大分合同新聞 教育目的以外の無断複製・転載および頒布を禁じます。